

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は申請課題名)	献血後に献血会場外で転倒した場合に大怪我をする場合とそうでない場合の状況の違いについての検討 (献血後に会場外で転倒することにより生じる転帰の原因分析)
研究期間(西暦)	2025年4月1日～2028年3月31日
研究機関名	東京都赤十字血液センター
研究責任者職氏名	事業推進二部 副部長 難波寛子

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

献血後に体調不良による転倒を防ぐための対応方法を献血時に説明しています。献血会場外で転倒した場合には、頭を打って大きなけがをしてしまう場合もあります。一方であまりけがをせずに済むこともあります。

大きなけがに至ってしまった場合とそうでない場合の状況を比較することにより大きなけがを予防する方法を探し、献血者への説明に生かすことを目的としています。

2022年1月1日～2024年12月31日の期間に東京都内で献血にご協力頂き、その後献血会場外で転倒された方を対象とします。

2 使用する献血血液等の種類・情報の項目

献血者の試料の種類：なし

献血血液等の情報：転倒時の年齢、性別、身長、体重、献血種別、献血場所
(ルームか献血バスか)、転倒した場所、転倒の詳細、受診の有無、入院の有無、救済終了までに要した期間、後遺障害の有無、後遺障害の詳細。

3 献血血液等を使用する共同研究機関及びその研究責任者氏名

《献血血液等を使用する共同研究機関》

ありません。

《献血血液等を使用しない共同研究機関》

ありません。

4 献血血液等を利用又は提供を開始する予定日

2025 年 7 月 1 日（倫理審査終了後設定）

5 研究方法《献血血液等の具体的な使用目的・方法含む》

献血血液等のヒト遺伝子解析：■行いません。 □行います。

転倒について記録を確認し、転倒の場所により事例をグループ化します。同様の場所で転倒した人のうち、重篤な結果となってしまった方と軽症で済んだ方について、それぞれ「重篤な結果に至った原因」「軽症で済んだ原因」を探索するために原因分析を行います。

同じような場所で転倒したにもかかわらず、重篤な結果となった方に共通する要因や、軽症ですんだ方に共通する要因を探し、比較することにより、重篤な結果を避けるために行うべきこと、避けるべきことを、場所別に決定し、献血頂く皆様への説明に生かす方法を考察します。

6 献血血液等の使用への拒否について

上記の情報を今回の研究に使用されたくない旨のお申し出をされた場合、匿名化処理により個人が特定できない状態になるまで（同意から概ね 2 週間後まで）にお申し出された方の情報は一切使用いたしません。また、お申し出された方に何ら不利益が発生することはありません。

7 上記 6 を受け付ける方法

下記の問い合わせ先に、情報の利用について拒否する旨を申し出ください。

所属	東京都赤十字血液センター
担当者	難波 寛子
電話	03-5272-3532
Mail	n-namba@ktxs.bbc.jrc.or.jp